



下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

施工の前に

- 低温条件下では硬くなりますので、冬期に施工しにくい場合には、室温を昇温してください。
- 巻き上げ施工する場合は、20R以上のR面木及びアルミジョイナー(楠アシスト製 No.20-311S)を使用してください。(下地の直線が出ていない場合は、巻き上げ施工できません。)
 (壁と床との取合い)において水平直角の精度が出ていれば、R面木不要の場合があります。
- シートに配合されている特殊骨材により、カッターの刃が磨耗してシートの切れが悪くなります。刃を頻繁に交換し、常に切れやすい状態でカットしてください。

1. 下地の清掃

- 砂・塵埃などを除去してください。
- 下地にゴミ、異物などが入りますと膨れの原因になりますので丁寧に掃除をしてください。

2. 割り付け

- できるだけ継目部を少なく、端部に小さなシートが入らないように割り付けてください。

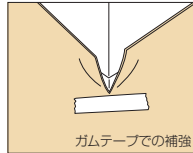
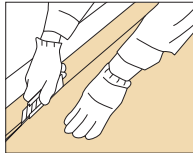
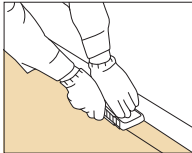
3. 仮敷き

- 張付け基準線に沿って、同方向に仮敷きを行ってください。
- 巻きグセを取り、シワが生じないように敷き延ばしてください。

4. 壁際の裁断

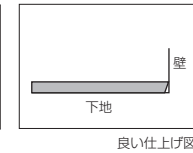
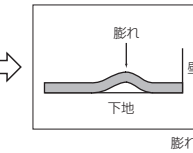
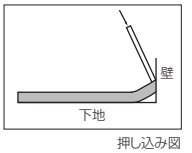
4-1. 巾定規による仕上げ

壁際・柱などの裁断は、巾定規・バースクライバーなどを用いて行えます。そして、けがき線に沿って裏面をアンダーカットしながら裁断してください。柱を切り込んだ場合、切り込み角からの裂けを防ぐためにガムテープで補強してください。



4-2. トリマーによる仕上げ

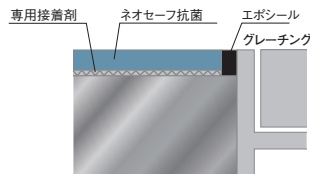
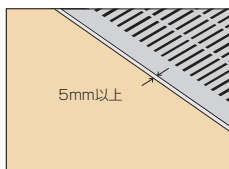
- シートを接着剤で張り付けた後にトリマーで壁際を仕上げてください。
- 冬期はシートが硬くなりますのでヒートガン・ガストーチで少し加熱してカットしてください。(加熱が過ぎると反り上がるため加熱が過ぎないように注意してください)
- 壁際の仕上げはシートを押し込まないでください。



4-3. グレーチング・排水溝廻りの仕上げ

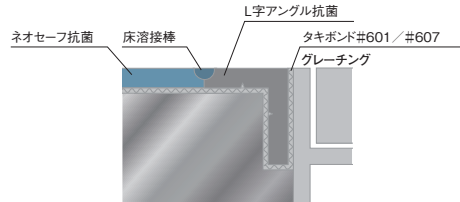
シール工法

- グレーチング廻りは端部処理材の仕上げ代として端部から5mm以上の隙間を空けてください。
- 接着剤を端部まで塗布するため、シート端部の位置を下地に鉛筆などで付いてください。



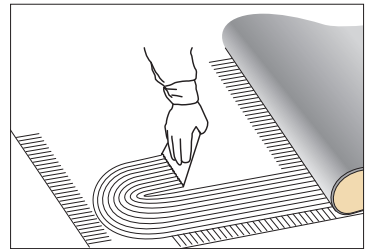
L字アングル工法

- グレーチング廻りに目地切り部が設けてあることを確認してください。
- 目地切り部の巾がL字アングル抗菌埋め込み部の巾以上であることを確認してください。
- L字アングル抗菌とシートが同じ厚みになるように仕上げてください。
- 詳細は「L字アングル抗菌施工方法」をご覧ください。(別紙)



5. 接着剤の塗布

- タキボンド#601の場合、接着剤は下地上での混合は行わないで別容器で十分に攪拌してください。(下地上で混合すると混合不良となり、後日の膨れ・接着不良の原因となります。)
- 下地に塗布ムラが生じないように均一に塗布してください。接着剤の溜まり、欠損部があると膨れの原因となります。
- シートの折り返し部は接着剤塗布重ねが生じないようにしてください。



標準塗布量

モルタル下地:300~400g/m² 非吸水性下地:250~350g/m²

- グシ山が1/3以上摩耗した場合、三角ヤスリで目立てを行ってください。

6. オープンタイムと張り付け

- 接着剤を塗布した後にオープンタイムを取り、エアーがみ・ズレが生じないように張り付け可能時間内にシートを張り付けてください。
- オープンタイムが短いとガス膨れが生じます。
- オープンタイムを取り過ぎて接着剤が乾きすぎると接着力が低下します。

接着剤	オープンタイム	張り付け可能時間
タキボンド#607	20~30分	40~50分
タキボンド#601	30~40分	60~70分
タキボンド#701	30~40分	50~70分

(下地の材質・気温・通気などによって異なります)

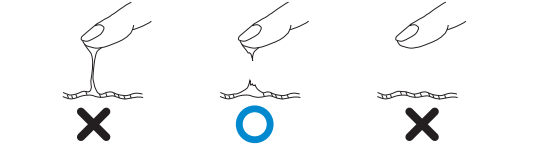
※5℃以下では使用しないでください。(硬化反応が進みません)

指触によるオープンタイムの目安

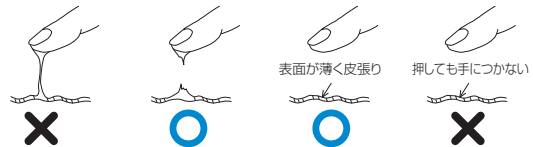
タキボンド#607



タキボンド#601

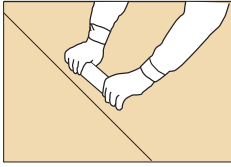


タキボンド#701



7. 圧着

- シート張り付け後、直ちにシゴキ圧着でエア一抜きを十分に行ない、床ローラーで圧着してください。
- 壁際の巻きくせは、接着剤に初期粘着が出た時期を見計らいヒートガン・ガストーチなどで少し加熱してハンドローラーで圧着します。
- エア一抜き・ガス膨れの点検を丁寧に行ってください。



8. 養生(1~2日)

- 接着剤が硬化するまで1~2日養生させてから、次工程の処理を行ってください。
- 接着剤が硬化するまで、気温が5℃以下にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため) また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- 接着剤が硬化するまで、重量物の運搬やキャスター椅子などによる「しごき」を避けてください。

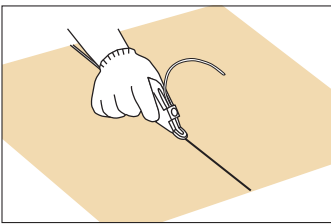
9. 継目の裁断

- 継目を溶接で仕上げる場合、継目に0.5mm程度(ナイフの刃の厚み)の隙間が生じるように調整したスクライバーなどでだけがいてから切断します。
- シート端部及び継目部をハンドローラーやコーナーローラーで十分に圧着してください。

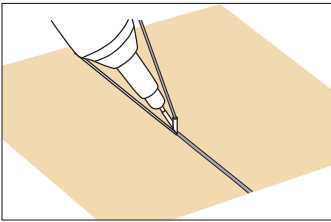
10. 継目処理

溶接工法

- (1)接着剤が完全に硬化してから溝切り機*等でシート厚みの2/3程度の深さでU字溝を設けてください。
※推奨:ヤヨイ化学販売(株)「ユーキリスーパー」
シート同士を空かして溶接する方法は絶対に行わないでください。



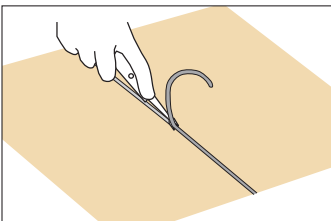
- (2)熱風溶接機(ライスター)でタキストロン床溶接棒を溶融させながら溶接ビードができる程度に溶接してください。



溶接条件の目安

設定	アナログ	6~7
	デジタル	400~500℃
スピード	1~2m/分	

- (3)タキストロン床溶接棒が冷えてから余盛部を溶接棒トリマー等で平滑に仕上げてください。

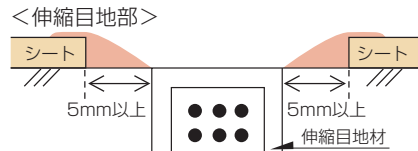
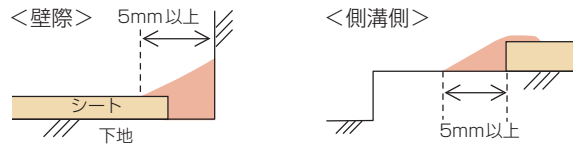


シール工法

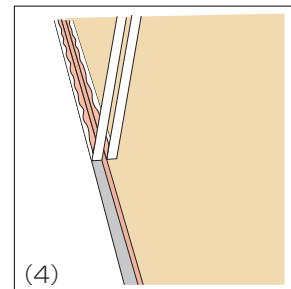
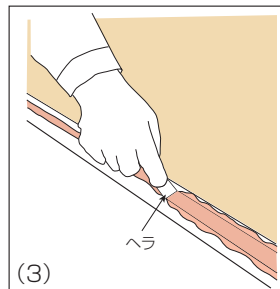
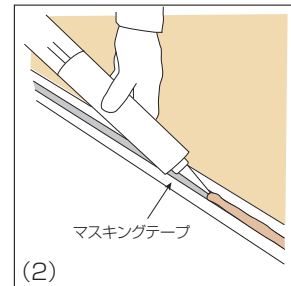
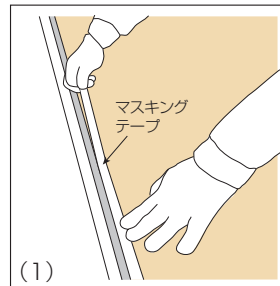
- 養生が可能な場合は、10.端部処理と同様の手順でエポシールを使用することも可能です。但し、以下につきまして十分に注意してください。
※養生期間を2~3日間設けてください。
※エポシールの仕上がり面は、硬化後多少の痩せが生じます。

11. 端部処理

- (1)仕上がり美しくするためにマスキングテープで養生してください。
- (2)気泡を巻き込まないようにシート端部及び壁際に塗布してください。巻き上げ施工の場合は、必要に応じてタキシル#600でアルミアングル部を止水してください。
- (3)充填後直ちに仕上げ用ヘラで平滑に仕上げてください。
- (4)ヘラ仕上げ後直ちにマスキングテープを除去してください。



- ※伸縮目地がある場合は目地手前で端部処理を仕上げ、目地を露出させてください。(伸縮目地上にシールを打設すると、シールにひび割れが発生する恐れがあります。)
- ※シールの仕上がり面は、硬化後多少痩せが生じます。
- ※施工時や養生中に湿度の高い場合や、結露、水滴などにより、シール表面の光沢に差が生じることがありますが、端部処理としての機能に問題はなりません。施工日が異なる場合は打継ぎ箇所を目立たない所にするなどご注意ください。
- ※エポシールは主剤、硬化剤、カラーマスターの混合が必要ですので、同梱の取扱説明書を参照してください。



12. 清掃

- シート残材・接着剤容器・梱包紙等を片付けてください。
- カッターナイフの折れ刃の回収を徹底してください。

13. 養生(2~3日)

- シール材が硬化するまで、2~3日養生させてください。
- シール材が硬化するまで、気温が5℃以下にならないようにしてください。(5℃以下では硬化しないため) また、急激な温度変化や水濡れがないようにしてください。
- シール材が硬化するまで、触ったり踏んだりしないようにしてください。(継目にシール材を使用する場合は特にご注意ください。)
- 養生中は土足での歩行を控え、汚さないようにしてください。(必要に応じて養生シートなどをご使用ください。)
- 屋内で使用する場合は換気を行い、引き渡しまでに数日間を設ける等の配慮をしてください。
- 重量物の運搬などは、接着剤やシール材が硬化した後、ベニヤ板などを敷いて車輪の跡形や傷を付けないように行ってください。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

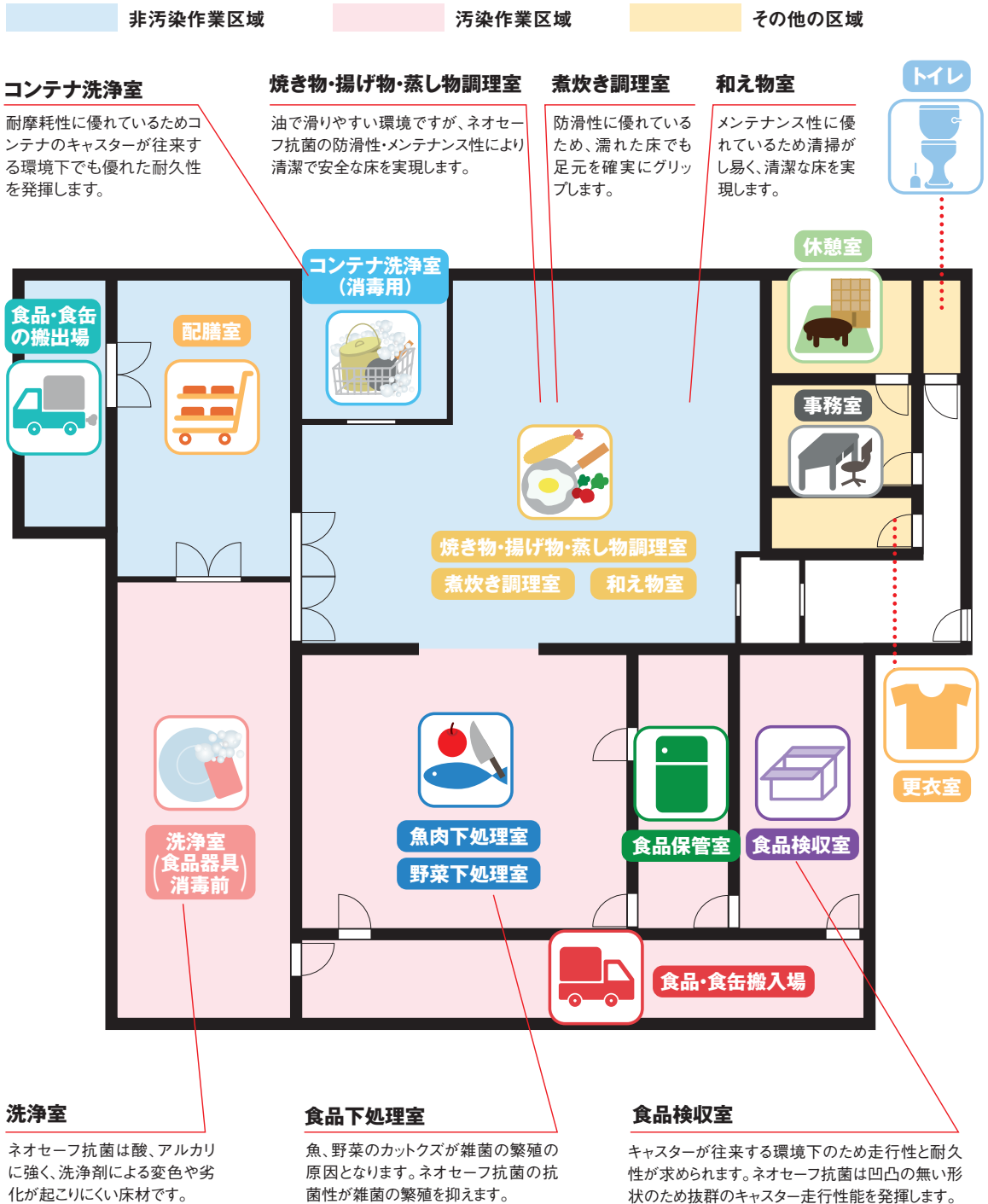
接着剤・副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

HACCP[※]対応エリア区分

HACCP[※]を導入する施設では、食材を菌に汚染されているものと汚染されていないものに分け、ゾーニングによりそれぞれ扱う部屋を区別しています。ネオセーフ抗菌は大規模給食センターから調理実習室まで、衛生で安全な床を実現します。衛生的で防滑性に優れた床材が、厨房の環境をサポートします。HACCP[※]対応のエリア区分も思いのままです。高熱にさらされる部分を除き、厨房設備の全ての床に施工可能です。



※HACCPとは

Hazard Analysis and Critical Control Point systemの略語で、食品の製造工程における品質管理システムのことです。製造の各工程で、予測される危害(HA)を分析し、重要管理点(CCP)を定める管理方式のため品質に問題が認められた場合、改善措置をすばやくとることが出来ます。

屋内施設

GK

7F

7Y

SL

ネオクリーン

ネオセーフ抗菌20

ネオセーフ抗菌25

L字アングル抗菌

試験データ P.203

法規関連 P.226

工法・下地 P.236

施工手順 P.255

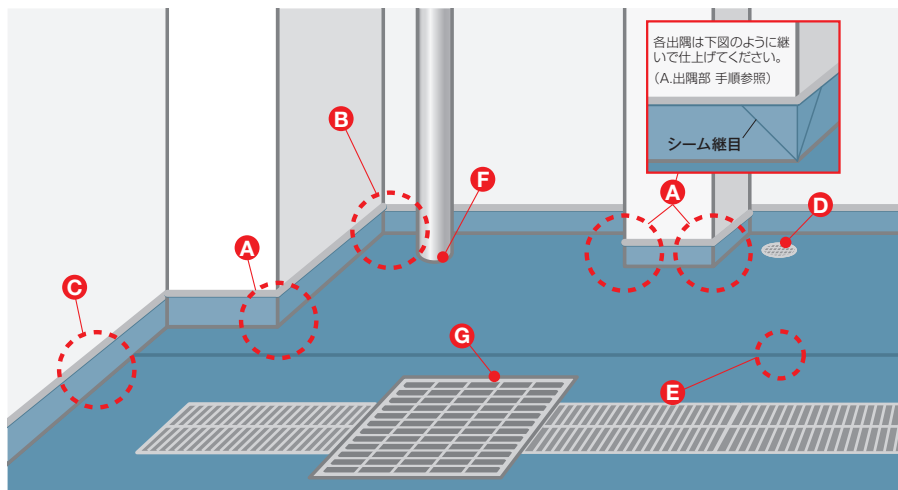
接着剤・副資材 P.315

副資材品番一覧 P.330

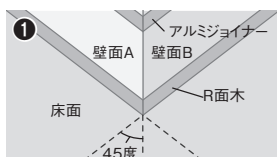
メンテナンス注意 P.335

納まり図

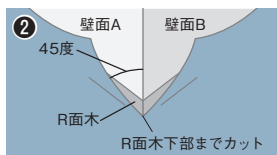
※納まり図は一例です



A. 出隅部

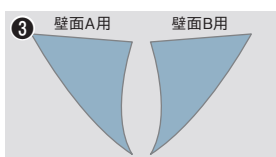


①床面と壁際とのコーナーにR面木を取り付けます。巻き上げ高さの位置にアルミジョイナーを取り付けます。

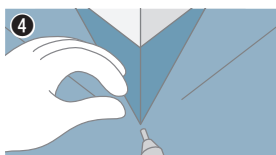


②出隅の角に対して45度にR面木下部までカットします。

※推奨シーム材 (株)広島
・コールドシームA(シート断面用)
・コーナーペースト(表面仕上げ用)



③出隅の材料が不足する各壁面A・壁面Bを三角形で足します。(不足部分は型紙などで寸法をとる事をお薦めします)

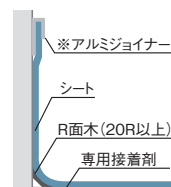


④継目部分はまずコールドシームAでシート断面を溶着させ、次にコーナーペーストでシート表面を仕上げます。

C. 巾木部

シートを巾木まで巻き上げて施工します。アルミジョイナーと20R以上のR面木を使用してください。アルミジョイナーは、シートを施工する前に、巻き上げ高さの位置に取り付けてください。

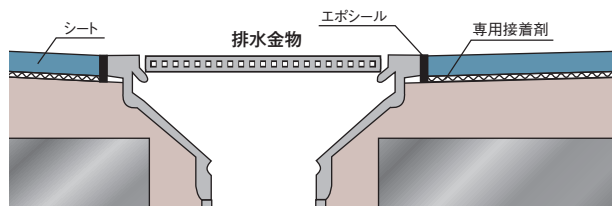
※アルミジョイナー推奨部材 (株)アシスト製 NO.20-311S



D. 排水金物廻り

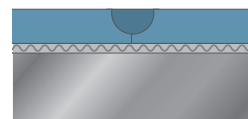
●水勾配

床下地に水勾配をつける場合、排水口金具の周囲1m以内はできるだけ均一な傾きであることが重要です。排水口金具の至近部分で丸め込んで「面合わせ」してある場合は、シートの膨れや剥がれ等の原因になります。



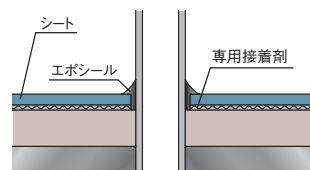
E. 継目

- ①溝切り機等でシートの厚みの2/3程度の深さでU字溝を設けます。
- ②熱風溶接機(ライスター)でタキストロン床溶接棒を溶融させながら溶接します。
- ③溶接棒が冷えてから余盛部を平滑に仕上げます。



F. パイプ廻り

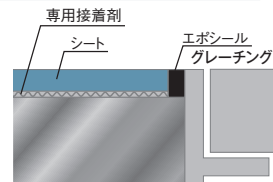
- ①パイプから2~3mm程度の隙間を設けてシートをカットします。
- ②専用接着剤にて張り付けます。
- ③エポシールを5mm以上の巾で図のように打設します。



G. グレーチング廻り

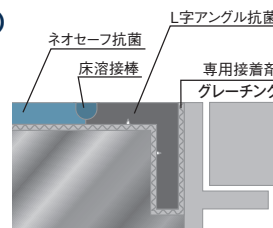
●エポシール工法

- ①グレーチング受金物から5mm以上の隙間を設けてシートをカットします。
- ②専用接着剤にて張り付けます。
- ③エポシールを図のように打設します。



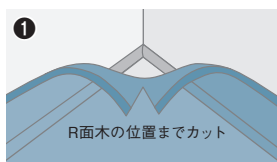
●L字アンクル工法(ネオセーフのみ)

- ①グレーチング受金物に沿ってダイヤモンドカッターで目地切りします。
- ②専用接着剤を全面に塗布します。
- ③L字アンクル抗菌を図のように目地切り部に埋め込みます。
- ④ネオセーフ抗菌を張り付けます。
- ⑤タキストロン床溶接棒にて継目部を熱風溶接します。

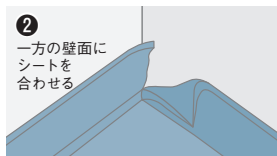


※L字アンクル抗菌の厚みがシートと異なる場合は差し込み方向を逆にしてください。

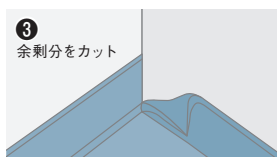
B. 入隅部



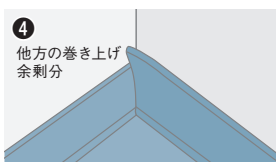
①床面と壁面とのコーナーにR面木を取り付け、アルミジョイナーを取り付けます。入隅のR面木上部までシートをカットします。



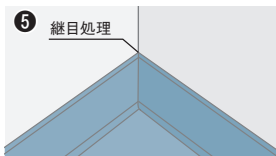
②シートを両方の壁面に立ち上げ、できるだけ入隅に押し付け、不要部分をカットします。



③一方の壁面にシートを合わせ余剰分をカットします。



④他方の壁面にシートを合わせ余剰分をカットします。



⑤両方の端部で正しく合わせ、継目をまずコールドシームAでシート断面を溶着させ、次にコーナーペーストでシート表面を仕上げます。

※推奨シーム材 (株)広島
・コールドシームA(シート断面用)
・コーナーペースト(表面仕上げ用)

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・副資材
P.315

副資材品番一覧
P.330

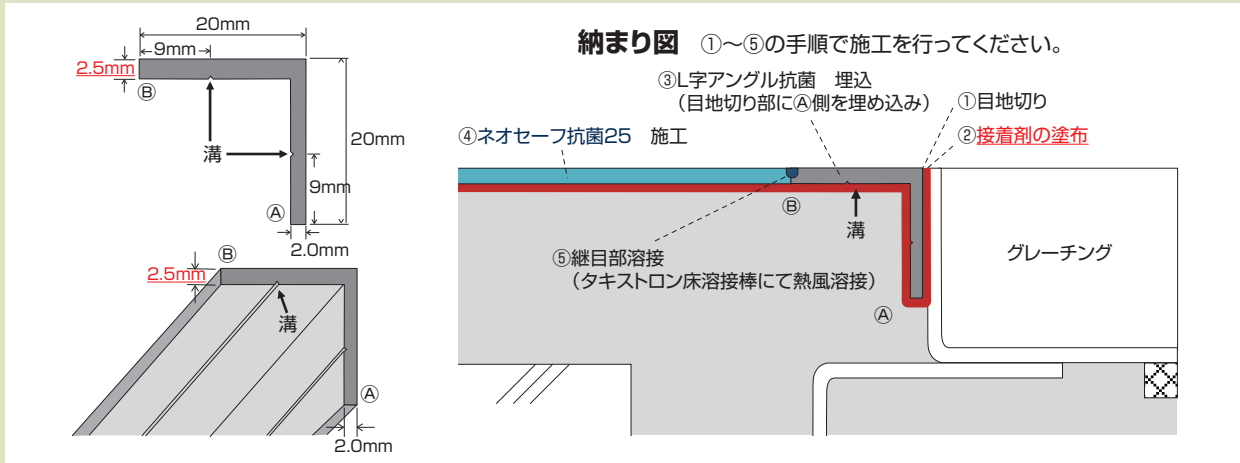
メンテナンス注意
P.335



下地や床材の種類によって使用する接着剤・副資材などが異なります。別紙「工法」の表を必ずご確認ください。
 使用前保管時・施工時・養生時 ① 5℃以下にならないこと ② 急激な温度変化がないこと ③ 水濡れのないこと

シートの厚みに合わせてL字アンクル抗菌の向きを変えてください。

ネオセーフ抗菌25(2.5mm厚)の場合



納まり図 ①～⑤の手順で施工を行ってください。

ネオセーフ抗菌20(2.0mm厚)の場合

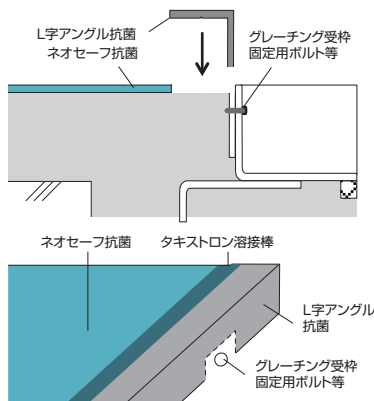
L字アンクル抗菌の目地切り部への差し込み方向を(A)逆にして、ネオセーフ抗菌20の厚さに合わせて施工してください。他の手順は上図のネオセーフ抗菌25同様です。

1. 下地の確認

- グレーチング廻りに目地切り部が設けてない場合は施工できません。グレーチング受金物(枠)に沿ってダイヤモンドカッターで目地切りしてください。
- 目地切り部の中がL字アンクル抗菌の埋め込み部の中以上であることを確認してください。

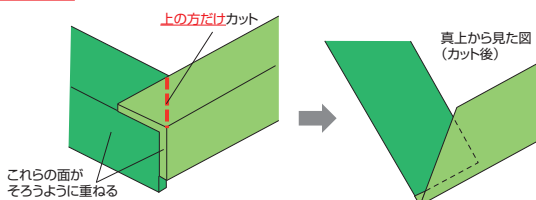
2. 仮置き・裁断

- L字アンクル抗菌とネオセーフ抗菌が同じ厚みになるように仕上げてください。
- L字アンクル抗菌埋め込み用の溝に、グレーチング受枠固定用ボルト等の突起があり溝が部分的に浅い場合には、L字アンクル抗菌の垂れ下がり部を切り取ってください。

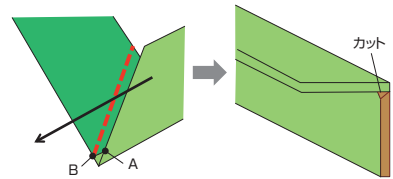


<入隅部>

- (1) L字アンクル抗菌を重ね合わせて、交点のラインで **上**に重ねた方だけをカットしてください。

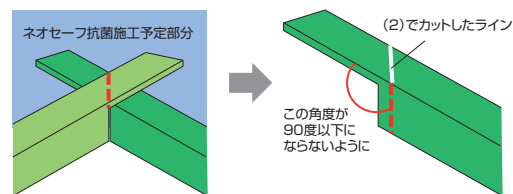


- (2) A点がB点に重なるようにずらし、下に重ねた方をカットしてください。
- (3) はみ出した角の部分をそれぞれカットしてください。



<出隅部>

- (1) L字アンクル抗菌を右図のようにそれぞれカットしてください。
- (2) 重ね合わせて、交点のラインで2枚一緒にカットしてください。
- (3) 下に重ねた方の垂れ下がり部を、下図のようにカットしてください。**(この時、開き角度が90度以下にならないように注意してください。)**



3. 接着剤の塗布・張り付け

- タキボンド#607/#601/#701を塗布し、オープンタイムを取った後、L字アンクル抗菌、ネオセーフ抗菌の順に張り付けてください。
- L字アンクル抗菌とネオセーフ抗菌の厚みが同じになるように仕上げてください。

4. 継目処理

- シートとL字アンクル抗菌との継目処理は、タキストロン床溶接棒にて熱風溶接をしてください。
- シートとL字アンクル抗菌との隙間を空かして溶接する方法は絶対に行わないでください。
- L字アンクル抗菌同士の継目は、シーム材を用いて仕上げてください。

※推奨シーム材 (株)広島
 ・コールドシームA (L字アンクル抗菌同士が密着している場合)
 ・コーナーペースト (L字アンクル抗菌同士の隙間が空いている場合)

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335

製品別選定表 (6)

< 共通注意事項 >

- 記載内容以外の工法での施工トラブルは原因説明ができませんのでご注意ください。
- 継目処理にシールを使用する場合は養生(2~3日)させ完全に硬化するまで触ったり踏まれないようにしてください。
(硬化後の仕上がり面は多少やせが生じます)
- 下地の種類によっては本来の接着強度が発揮できない場合がありますので、営業担当者にお問い合わせください。(事前の接着テストをおすすめいたします。)
- 下地が塗膜防水材や塗り床などの場合は、種類によって副資材の選定が異なります。営業担当者にお問い合わせください。
- 鋼板製の下地については十分な防錆処理(ケレン・錆止め・上塗り)を施してください。種類によっては接着しないことがありますのでお問い合わせください。
- ステップに同梱しているタキボンド#650は凹凸の少ない標準的な下地を想定した数量を付属しています。不足する場合は別売品を追加購入してください。
- 製品を5℃以下で保管・施工・養生しないでください。(冬期などは特にご注意ください。)
- 5℃以下になると製品の品質が変化したり、接着剤やシール材の硬化不良、接着力低下、テープの粘着力低下などの不具合が起こることがあります。
- ナイスレシートの使用可否については、ナイスレシート施工手順をご覧ください。

屋内施設用 タキステップ7F・7Y →施工手順 P.303

工法	用途	下地	接着剤	シートとの継目処理剤	端部処理材 及びステップ同士の継目	段鼻隙間 充填用接着剤	プライマー
一般工法	屋内で水を使用しない場所	吸水性下地 (モルタル下地など)	タキボンド #607	床溶接棒	タキシール#600	タキボンド #650	タキボンド #625
耐水工法	屋内で大量に水は使用しないが 湿気の恐れのある場所(接地階など) または非吸水性下地(塗り床など)	吸水性下地・ 非吸水性下地	タキボンド #607	床溶接棒	タキシール#600	タキボンド #650	タキボンド #625

- 下地の種類によっては、プライマー タキボンド#625(別売品)が必要な場合があります。(#650を段鼻に接着させるため)
- 端部処理は前垂れの浮きや段鼻の破損を抑制する効果がありますので段鼻下部は必ず実施してください。
- 換気を行い、引き渡し日までに数日間設けるなどの配慮をしてください。
- ナイスレシート(NL-030)、ナイスレシート45(NF-050)との二重張りは出来ません。

屋内施設用 タキストロンGK →施工手順 P.305

タキストロンGK + ナイスレシート(NL-030)

→施工手順 P.287

工法	用途	下地	接着剤	継目処理材	端部処理材
一般工法	屋内で水を使用しない場所	吸水性下地 (モルタル下地など)	タキボンド #607・701	床溶接棒	不要
耐水工法	屋内で大量に水は使用しないが 湿気の恐れのある場所(接地階・洗面所など) または非吸水性下地(塗り床・重ね張りなど)	吸水性下地・ 非吸水性下地	タキボンド #601・607・701	床溶接棒	タキシール #600

- 換気を行い、引き渡し日までに数日間設けるなどの配慮をしてください。
- ナイスレシート45(NF-050)との二重張りは出来ません。

屋内施設用 ネオクリーン →施工手順 P.301

ネオクリーン + ナイスレシート(NL-030)

→施工手順 P.287

工法	用途	下地	接着剤	継目処理材	端部処理材
耐水工法	屋内で大量に水は使用しないが 湿気の恐れのある場所 (接地階・洗面所など) または非吸水性下地 (塗り床・重ね張りなど)	吸水性下地 非吸水性下地	タキボンド #601・607・701	床溶接棒 エポシール	エポシール タキシール#600 クリアー(CLR)
特殊耐水工法	屋内で大量に水を使用する場所	吸水性下地・ 非吸水性下地	タキボンド#601	床溶接棒 エポシール	エポシール

- 換気を行い、引き渡し日までに数日間設けるなどの配慮をしてください。
- ナイスレシート45(NF-050)との二重張りは出来ません。

屋内施設用 ネオセーフ抗菌 →施工手順 P.297

ネオセーフ抗菌 + ナイスレシート(NL-030)

→施工手順 P.287

工法	用途	下地	接着剤	継目処理材	端部処理材	グレーチング廻り
耐水工法	屋内で大量に水は使用しないが 湿気の恐れのある場所 (接地階・洗面所など) または非吸水性下地 (塗り床・重ね張りなど)	吸水性下地 非吸水性下地	タキボンド #601・607・701	床溶接棒 エポシール	エポシール タキシール#600 クリアー(CLR)	エポシール L字アングル抗菌※1
特殊耐水工法	屋内で大量に水を使用する場所	吸水性下地・ 非吸水性下地	タキボンド#601	床溶接棒 エポシール	エポシール	エポシール L字アングル抗菌※1

- 換気を行い、引き渡し日までに数日間設けるなどの配慮をしてください。
- ナイスレシート45(NF-050)との二重張りは出来ません。
- ※1 ナイスレシート(NL-030)との二重張りの場合、L字アングル抗菌は使用できません。

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス・
注意
P.335

L字アンクル抗菌

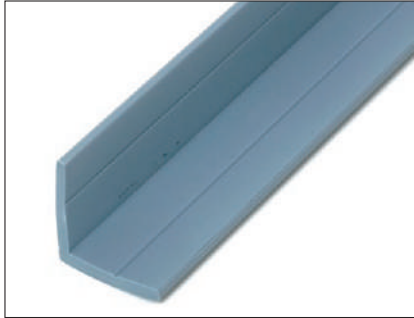
ネオセーフ抗菌専用

規格

- 寸法：巾20mm×20mm×長さ2m・厚さ2.0mm/2.5mm
- 梱包：8本入り/ケース
- 色数：7色

価格(材料価格・税別)

長さ	1ケース/8本入り	1本当り
2,000mm	12,000円	1,500円



- グレーチング廻りに施工することで、水の浸入を防ぎます。
- 溶接によりネオセーフ抗菌と一体化します。
- 抗菌性を有しています。

L-4020



L-4030



L-4110



L-4120



L-4130



L-4140

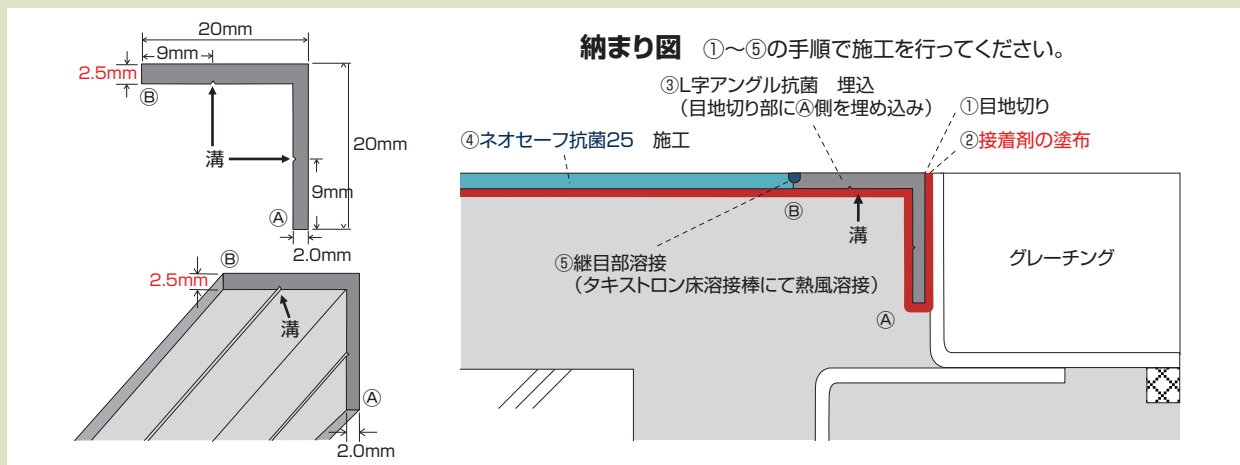


L-4520



シートの厚みに合わせてL字アンクル抗菌の向きを変えてください。

ネオセーフ抗菌25(2.5mm厚)の場合



納まり図 ①～⑤の手順で施工を行ってください。

- ①目地切り
- ②接着剤の塗布
- ③L字アンクル抗菌 埋込 (目地切り部にA側を埋め込み)
- ④ネオセーフ抗菌25 施工
- ⑤継目部溶接 (タキストロン床溶接棒にて熱風溶接)

グレーチング

注意

- 直接熱湯がかかる場所へは使用しないでください。
- 継目はタキストロン床溶接棒を用いて熱風溶接処理を行ってください。
- 品番決定の際に必ず現場で色の確認を行ってください。
- L字アンクル抗菌の厚みとシートの厚みが一致していることを確認してください。



屋内施設

GK

7F

7Y

SL

ネオ
クリーン

ネオセーフ
抗菌20

ネオセーフ
抗菌25

L字
アンクル抗菌

試験データ
P.203

法規関連
P.226

工法・下地
P.236

施工手順
P.255

接着剤・
副資材
P.315

副資材
品番一覧
P.330

メンテナンス
注意
P.335